

## 第5回 玉名市都市計画マスタープラン策定委員会 議事概要

### (1) 策定委員会概要

日時	平成25年12月2日(月) 午前10時～12時
場所	市役所本庁3F 第一委員会室
出席者	<p>委員長：西島 衛治（九州看護福祉大学教授）  副委員長：秋元 一秀（崇城大学准教授）  委員：羽山 眞澄（熊本県建築士会あらたま支部代表）  福本久美子（九州看護福祉大学教授）  東 令佐（玉名市農業委員会会長）  福嶋 譲治（玉名市議会建設経済委員長） 【新委員】  平野 幸人（玉名商工会議所会頭） 【新委員】  西村 敏男（玉名市商工会会長）  松村 誠一（玉名市区長会協議会会長）  徳村 美佳（男女共同参画社会づくり地域リーダー）  境 あゆり（JAたまな女性部横島支部長）  水下 睦文（玉名警察署交通課長）  吉永副署長（有明広域行政事務組合消防本部玉名消防署長：代理）  米満 譲治（熊本県県北広域本部玉名地域振興局長）</p> <p style="text-align: center;">※ 欠席者：1名 谷口 強（玉名市社会福祉協議会事務局長）</p> <p>事務局：坂口建設部長  （都市計画課）  三次課長、田上審議員、松野課長補佐、神永係長、森田主査、森川主任</p> <p>コンサル：松島課長、福満係長（玉野総合コンサルタント株式会社）  ※他、玉名地域振興局 随行者1名（土木部技術管理課 村上参事）  玉名商工会議所 随行者1名（坂本専務）</p> <p style="text-align: right;">※敬称略</p> <p style="text-align: center;"><b>計 25名（委員会メンバー14名、事務局7名、コンサル2名、他2名）</b></p>
会次第	<p>会次第</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委員長挨拶</li> <li>3 報告事項  （報告1）第4回策定委員会について  （報告2）全体構想（案）及び地域別構想（案）の主な追加・修正箇所について</li> <li>4 議事  （議題1）新庁舎を中心とした今後のまちづくりについて  （議題2）都市計画マスタープランの最終素案について  （議題3）今後のスケジュールについて</li> <li>5 その他</li> <li>6 閉会</li> </ol>

(2) 主な意見及び質疑応答

● (報告2) 全体構想(案)及び地域別構想(案)の主な追加・修正箇所について

NO	質 疑 ・ 意 見	回 答
1	<p>新聞報道で、玉名市の地域医療体制の推進に関する記事があり、新たな拠点病院的なものを検討されるとのことであったが、このことに関するMPへの記載は考えておられるのか。</p>	<p>医療体制の充実というのは都市をつくる上での拠点ともなり得るところであるため、担当課に状況を確認し、MPとして必要な事項であれば反映する。今後調整する。(事務局)</p>
2	<p>(P149)国道501号線については、有明沿岸道路の延伸計画を背景に玉名市の玄関口としての重要性が高まっていることから、現在、景観性向上に向けた取り組みとして整備を県で行い花壇等の維持管理を地元で協力をお願いしたいと考えている。玉名地域振興局としては、現在、長洲町と協議を実施しているが、今後、玉名市とも県・市協働での取り組みについてご検討いただきたい。</p>	<p>国道501号線は重要な広域連携軸として位置づけており、景観性を重視することは必要だと考えていることから、今後、県との調整を図りながらMPへの記載についても検討する。(事務局)</p>
3	<p>「本市の概況」の中の「公共交通機関(1-6-2)」に関する記述の中で、産交バスが横島方面の運行しているような記述となっている。現在、横島地域の産交バスの運行は平成25年10月より乗り合いタクシーに移行したことに伴い廃止されているため、報告書も修正すべきではないか。</p>	<p>修正する。(事務局)</p>
4	<p>国道501号線について、松原海水浴場入り口付近の信号機より西側(長洲町との境界までの区間)には信号機が設置されていないことを背景に死亡事故が多いことから、前向きに取り上げていただきたい。</p>	<p>都市マスへの記述ということではなく県警との調整事項であり、担当課に申し伝える。(事務局)</p>
5	<p>他県や他市を視察する中で、どこに行ってもコミュニティバスが運行されている。産交バスへの補助金や色々な利用度合いを考えると、玉名市もそういった方向性・取り組みが大事ではないか。</p>	<p>コミュニティバスや乗り合いタクシーなどについては、「玉名市地域公共交通総合連携計画」との連携を図りながら「交通施設などの整備方針」の中の「各種公共交通(P109)」の部分で整理している。(事務局)</p>
6	<p>超高齢化社会では拠点病院を繋ぐアクセス(足の確保)が保障されないとかなり厳しいと思われる。</p>	<p>計画書のP14、15にこれまでの高齢化率は記載してあるが、10年後、20年後、30年後の予測がマスタープランの目安になってくる。</p>
7	<p>20年後は超高齢化社会に入って3人に1人が65歳以上という人口構成になることが予測されることから、それをまず頭に入れて20年後の人口構成を見据えたマスタープランを策定すべき。備考欄にでもいいから人口推計結果を記述していただきたい。</p>	<p>計画書のP14、15にこれまでの高齢化率は記載してあるが、10年後、20年後、30年後の予測がマスタープランの目安になってくる。</p>

●（議題1）新庁舎を中心とした今後のまちづくりについて

NO	質 疑 ・ 意 見	回 答
8	新玉名駅においては、日中、常に駐車場が満車状態であることから、市民だけでなく、沿線地域からも不安と不満の声があがっている状況である。人を呼び込むための都市計画であり、まちづくりであるということで、駐車場を拡張していただきたい。	・現在の状況としては、イベント広場を開放(60台分)し、利用者が相当多い時期でも何とか対応・運営できている。現在、今後の対応については色々なシミュレーションを行い検討中であることから、早い時期にご説明できるように。（事務局）
9	現在、新玉名駅の無料駐車場に長期的に駐車する方も居ることから、利用実態の把握が必要であるとともに、何時まで維持管理費などの財政負担を市が続けるか検討が必要。また、超高齢化社会になると運転できない方が増えるため、コミュニティバスと新玉名駅を繋ぐなど、マイカーに頼らないまちづくり（足の確保）を進めるべき。	・今後関係課と連携し、調整していきたい。（事務局）
10	コンパクトなまちづくりを推し進める国・県の方針や農振地域の規制などにより市街地を拡大することが難しいことは理解できるが、今後、市街地が自然に動いていくことが想定される。このような中、インフラ整備など計画的なまちづくりの方向性を持って進めて行くことで国の補助を受けれるなど、市の財政負担も少なくなると思われる。	現時点でも概ね盛り込まれていると思うが、具体的には、新たな市街地での展開として、商業的な展開だけでなく、福祉など他分野との連携も視野に入れておくべきである。
11	玉名はこれまで培ってきた高瀬や歴史的な現市役所跡地を中心としたまちなみなどを大切にしながらこの景観を維持することが重要ではないかと思う。また、新玉名駅周辺は民活による開発を推進したとしても景観を維持するような色彩などに配慮した規制を設けるなど、来訪者が駅に降り立った時に、「玉名に来た」とイメージ出来るような景観形成に向けた取り組みが大事である。	歴史的なまちなみを保存するという意向は、市も継続して進められると思います。
12	現市役所周辺の繁根木や立願寺周辺においては、非常に空き家が多い中、地域内の高齢者の人達が、自分達で守り合おうという活動をされている。また、これらの空き家をうまく活用すれば高齢者のための住宅などコンパクトなコミュニティが形成できるのではないか。新たな開発を進めるのではなく、玉名の風景をイメージしながら地域のコミュニティや歴史性、景観を重視したまちづくりの検討が必要ではないか。	空洞化した空き家対策や高齢者向けのサービスの拠点化などに関する記述は、本計画書に謳われております。
13	「人を減らさない、呼び込む」という思いをマスタープランに盛り込むべきである。	今後、超高齢社会を迎えるが、そうした傾向を積極的に利用し、他都市から人を呼び込むことは十分可能。そういったことは本計画に謳ってあると思います。

NO	質 疑 ・ 意 見	回 答
14	<p>新玉名駅周辺で新幹線利用者が手土産を買ったり、新鮮な農産物などのPR販売が出来るような産直施設のようなもの確保したいと考えているが、あのエリアは農業振興地域地域（農振農用地）に入っているのか。その解除はできるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業振興地域（農振農用地）であり、具体的な事業計画が無いと進められないと思われる。（事務局）</li> <li>・ 農振除外や農地転用の可否については、担当部署が農林水産政策課及び農業委員会となる。（事務局）</li> </ul>
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新玉名駅周辺や新庁舎周辺も大事ではあるが、最も大事なのは現庁舎周辺を含む中心市街地である。現庁舎の築年数は昭和34年であり、50年以上経てば文化財として申請・登録することが可能であるため、文化財として位置づけた上で、活用していくことも考えられる。現庁舎周辺から人が離れていかないような取り組みが重要であることから庁舎跡地については、必ず人が通るように交通ターミナル的な雰囲気を持たせるなど空洞化を防ぐ対策が必要。</li> <li>・ 新庁舎周辺においては、車が通るための道路ではなく建物が立地できるようにするための道路整備などのインフラ整備を進めるべきである。一方で、新玉名駅周辺において市街化が進まないのは埋蔵文化財調査がネックとなっている。</li> </ul>	
16	<p>超高齢社会が進み高齢者の足の確保が重要となってくる中で、まだ乗り合いタクシーや福祉バスなどが利用できない地域が多く、そのような地域の高齢者がその運行を望まれている。20年先の超高齢社会を見据えたまちづくりが玉名市にはマッチしているのではないか。</p>	<p>ご意見ということで承る。</p>
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「6-3 新庁舎を中心とした今後のまちづくり」の位置付けとしては、問題点を示すだけなのか、それとも構想まで謳うのか。</li> <li>・ 標記の仕方として、中心市街地の中での位置付けにすべきではないか。また、第3章の課題の中では、中心市街地の再生・活性化や無秩序な市街地の拡大の抑制といった風に課題等が整理されているのに、「新庁舎を中心とした」資料の図を見ると個別で新玉名駅とかといった風に示されているので、全体像が見えなくなる。大きな課題の中の位置付けや優先順位といったような記述できないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この資料は新たな提案として整理したものであり、重要なポイントとなる重要拠点に関する今後の考え方として示している。</li> <li>・ この資料では新たな拠点等に関して整理しているものであり、計画書の前段でも述べているとおり、当然、既成市街地の問題など大きな課題であると認識している。中心市街地の活性化など含めて整合性が図れるように図を工夫するなど検討したい。（事務局）</li> <li>・ 新しいものと古いものをどう融合させていくかという方向性が必要ではないか。</li> </ul>

●（議題２）都市計画マスタープランの最終素案について

NO	質 疑 ・ 意 見	回 答
18	「6-3 新庁舎を中心とした今後のまちづくり」の資料については、地域別構想における各地域の計画の後に突然出てきたようなイメージを抱く。内容からすれば課題を整理された資料と思われるので、第3章の都市づくりの課題のところに掲載すべきではないか？	もう少し関連性などを再確認して、再整理を検討する。（事務局）
19	玉名市は南北軸が弱いとのことであったが、以前から計画されていた、都市計画道路高瀬中線（六田～永徳寺～菊地川堤防～国道208号）の現在の状況は？	整備の現実性としては非常に難しく、現時点では具体的な実施計画がない状況。（事務局）
20	熊本市方面では県道1号の改良工事が進められており、玉名市側でも、菊池川左岸からの市街地方面への15分構想の実現に向けた取り組みとして進めるべき。	ご意見ということで承る。